

## 株式会社レゾナック・ホールディングス 2023 年通期 決算説明会 Q & A 要旨

日時：2024 年 2 月 14 日（水）17:00～18:30

説明者：代表取締役社長 社長執行役員 CEO 高橋 秀仁、取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

\*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 24 年度の特別損益予想はネットで損失サイドになっている。特別利益には昨年 11 月に発表した固定資産譲渡益が含まれているとすると、特別損失として構造改革費用を見込んでいるということか。**

A そのご理解で結構。構造改革は 23 年度中にやり切りたかったが、一部 24 年度に持ち越したものが、一定規模の特別損失を見込んでいる。

### 【石油化学(石化)事業のパーシャル・スピノフ検討開始】

**Q 現時点でスピノフの実行までに、利害関係者との間に大きな障壁があれば教えてほしい。**

A 関係省庁や金融機関などとの対話は開始しており、実行には上場申請などの色々なハードルがあるが、現時点でノックアウトファクターはないと考えている。

**Q 既存株主を含めた投資家にはどのように新会社の魅力を訴求していくのか。**

A 具体的なエクイティストーリーはこれから考えていくが、当社の石油化学事業は、比較的業績やキャッシュ・フローの創出能力が安定していることに加え、独立によるオペレーショナルエクセレンスの可能性や、グリーン・トランスフォーメーションなどの取り組みを含めて、しっかり詰めていきたい。

**Q 他社との統合など、石化の業界再編は目指さないのか。**

A 他社と組んだ方が企業価値の向上にも従業員の幸せにも資するということになれば、その選択肢を取る可能性はある。各石化メーカーとは引き続きコンタクトを取ってきたい。

**Q パーシャル・スピノフのスキームを選んだ背景は。**

A 従業員の幸せと社会的責任と株主様の利益のバランスをどうやって取るのかを葛藤した中で、当社が 20%弱の株式を保有し、研究開発分野を含めたレゾナックのリソースを使えるスキームにすることが重要だと考えたことが背景にある。

### 【半導体・電子材料セグメント】

**Q アメリカにパッケージングソリューションセンターを設立する狙いを教えてほしい。**

A GAFAM など AI 向けの半導体をデザインする企業とコンタクトを取れるようにしたいというのが大きな狙い。

**Q 半導体・電子材料セグメントの 24 年見通しについて、23 年度からの偏差要因を教えてほしい。**

A 売上高は、半導体後工程材料は上期から改善傾向が続く一方、前工程材料は上期には NAND の稼働がそこまで戻らない前提であり、本格回復は下期から。HD メディアの販売数量は 23 年度 4Q から戻っており、24 年度は上期にはその水準で推移し、下期にはもう少し増えるイメージ。営業利益は、23 年度に赤字を計上していた HD メディアの黒字化が最も大きな改善要因。

### 【モビリティセグメント】

**Q 24 年度の上期と下期の利益の段差を説明してほしい。**

A 収益性向上に向けた取り組みは継続しており、その効果を下期の方が強めて見ていることが背景。

### 【ケミカルセグメント】

**Q 23 年度の黒鉛電極の業績は厳しかったようだが、どう立て直すのか。**

A 24 年のグローバルの需要動向は前年から横ばい圏という見立て。一方で価格競争はアジアや欧州を中心に引き続き厳しい。しかし、23 年度中に棚卸資産の簿価に低価法を適用して引き下げたことに加え、ニードルコークス価格が下がってきた中で、そうしたコストの安い材料を使った在庫が払い出される段階に入るので、下期には数量が伸びなくとも、利益の回復が進んでいくと見ている。

以上

\*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。